

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童・生徒一人ひとりが豊かな将来を切り拓くために、その個性と可能性を最大限に伸ばし、安全安心で社会に開かれた魅力ある学校づくりをめざす。

1. 子どもの将来像を見すえた教育活動の充実
2. 安全安心な教育環境の整備
3. 保護者・地域・関係諸機関との連携
4. 教職員の専門性とチーム力の向上

2 中期的目標

1. 子どもの将来像を見すえた教育活動の充実

(1) キャリア教育の観点で、改訂した教育課程の検証及び授業研究の実践により、小中高一貫した教育をすすめる。

(2) シラバスと評価の関連性について検証、実践する。

※カリキュラム・マネジメントPTにおいて R3 : 検証 R4 : 改善 R5 : 定着を図る

(3) アセスメントに基づいた個別の指導計画の作成を徹底する。

(4) なんば祭、作品展を通じ、授業の具体的な様子について、保護者に分かりやすく周知する。

※なんば祭検討委員会において R3 : なんば祭と作品展の同時開催について検討 R4 : 授業との関連について検証 R5 : 定着を図る

2. 安全安心な教育環境の整備

(1) 「コロナ対策検討委員会」により検証を行い、新型コロナウイルス感染対策を徹底する。

(2) 個人情報の保護、アレルギー対応、施設・設備の安全を徹底する。

(3) 人権教育について、研修を通じ教職員の意識を更に深め、子どもの人権を尊重した教育を推進する。

3. 保護者・地域・関係諸機関との連携

(1) 保護者のニーズを把握し、講師を招聘した座談会を通じ、PTAによる研修の充実を図る。

(2) アンケート等を通じニーズを探り、地域支援や出前授業において障がい理解を推進する。

(3) 家庭の困り感に寄り添い、校内支援システムの強化により、迅速な関係諸機関との連携に努める。

4. 教職員の専門性とチーム力の向上

(1) 授業についての考察を深め、ホームページによる発信を工夫する。

(2) 教科会における実践の共有により、教職員間で学びあい、専門性を高めあう機会をもつ。

(3) 教職員の意見を集約し、業務の効率化を更にすすめ、健康的で活気ある職場環境を整える。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○回答率は保護者 154 名 64% (昨年度 69%)、児童生徒 142 人 59% (昨年度 66%)、教職員 90% [100%] である。コロナ禍でもあり、やや昨年度よりも集約数は少なくなった。※大きな行事が 12 月から 1 月となったため、今年は集約の時期を 1 カ月半、遅くした。</p> <p>【児童生徒】・今年度、避難訓練時に防災関連のビデオ視聴等による学習を併せて実施した。「先生は地震や火災などが起こった時どうしたらよいかを教えてください。」の問いに対する肯定的回答率が 76.1% (昨年度 67.0%) と上昇しており、成果が見られる。</p> <p>【保護者】・肯定的回答率が多かった項目は「教職員は子どもたちに対して適切なことばかけができています。」で、94.7 %であった。本校では、子どもへの言葉かけや、気持ちに寄り添った支援を大切にすることを互いに心がけ毎年研修を実施している。また、今年は「体罰ゼロ宣言」と掲げたポスターを作成し、教職員の目に留まる場所に貼っている。この結果は、これまでの積み重ねの成果ではないかと感じている。今後も引き続き意識を高めていきたい。</p> <p>・次に「学校の様子を懇談会や授業参観・連絡帳・便り・ホームページ等によって知ることができる。」の項目の肯定的回答率が 94.0 %であった。今年度、教職員 1 人 2 回以上、授業に関する内容のブログを掲載した教職員の成果であると考えている。コロナ禍にあって、学校の様子がよくわかるという評価を頂け、非常に有効な取り組みであったと感じる。</p> <p>・個別の指導計画の活用についても概ね高評価であるが、実際の運用については実質的に、有意義に活用されているか検証する必要がある。</p> <p>【教職員】・ほとんどの項目、肯定的回答が 80%から 90%を超えるという非常に好結果であった。特に個人情報保護の項目では、否定的な回答がなく、日々声を掛け合い、個人情報配付の日には職員室に標識を立てるなど、様々な工夫による成果である。</p> <p>・教職員の PTA 活動全般への参加の項目で「あまりあてはまらない」という否定的項目が 35.1%である。状況的に機会もなかったが、次年度は何等かの工夫が必要である。また、アセスメントの活用や関係諸機関との連携といった支援教育の専門性を問われる項目について、「よくあてはまる」の回答が 30%と、他の項目と比較しやや少ないため、更に研修をすすめる必要があると思われる。</p>	<p>【第1回】6月28日(月)開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者のニーズ把握」について。昨年度 PTA 研修会に参加し、非常に良かった。今年度も継続していただき、参加者からの感想について HP 等で掲載していただければ。 ・「小中高一貫した教育課程」について。学部を超えた授業、活動を行う取組みには賛意を表したい。「子どもが子どもから学ぶ」ということはとても大事。子どもにとってもインパクトのある取組みだと思う。 ・「近隣校へ障がい理解を深める」取り組みについて。最近、地元小中学校では障がい理解のニーズが高まっている。出前授業等の取組みは地域としても非常に助かっている。 <p>【第2回】12月17日(金)開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校のキャリア教育は、(教員の意識、意欲も含め)年々充実してきていると感じる。授業アンケートの意見など、保護者の意見を正面から真摯に受け止め、改善に努めて欲しい。 ・「地域との連携」について。ヤングケアラーや保護者支援など、地域の現状を確認し、連携を強めて欲しい。 ・子どもたちにとっては卒業後の生活の方が断然長いので、在学中に培ったことを将来に活かせるよう、キャリア教育の視点をもって取り組んでいただくことは非常に大事だと思う。 ・「専門性・チーム力の向上」について。この点については、年々専門性等高まっているように感じている。明確な視点をもって取り組んでいる。個人が獲得したノウハウ等をデータベース化して共有する取組みをすすめていることは素晴らしいと思う。 <p>【第3回】3月10日(木)開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ネットワーク事務所の引っ越しにあたり、高等部の生徒に清掃活動を依頼した。コロナ禍で大変だと思うが、地域に出でいくことで子どもたちのいろいろな面が見えてくるので、今後も継続してほしい。 ・全体的にとってもよい評価であった。個人情報の管理について「よくあてはまる・ややあてはまる」で 100%であったのは素晴らしい。 ・教職員同士が日常的に話し合っているという点について、学校全体に明るい雰囲気があるということに安心した。訪問した時の包み込んでもらえるような雰囲気がよい。これは難波の特徴的な風土だと思うので保ってほしい。 ・教職員の PTA 活動への参加が振るわないという点についてはコロナ禍ということで難しいと思うが、ネットなどを活用し、工夫をしてほしいと感じた。 ・PTA 座談会が好評とのこと、今年は web 開催であったが、対面で行えるようになるまで途切れることなく続けていただきたいと思います。

府立難波支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育活動の充実	(1) キャリア教育の観点で、小中高一貫した教育課程を検証する。	(1)ア カリキュラム・マネジメントPTにより、昨年度改訂した教育課程の実践状況を検証し、本校のキャリアプランニング・マトリクスを基に小中高一貫した教育課程となるよう更なる改善を検討する。	(1)ア 教職員全体に向け年2回報告会を設ける。7～8月に、小中高一貫教育の実践についてPTより教職員全体に状況報告、年度末に達成状況について検証結果を教職員全体に周知することにより、今後の定着を図る。	(1)ア 9/3に小中高一貫教育の一環として、中学部、高等部において学部を超えた合同授業の実践報告を2回行った。生徒の様子により成果が感じられ、次年度も継続して実施する予定である。(○)
	(2) 昨年度までに作成したシラバスの検証を行う。	イ 年2回外部講師を招聘し、キャリア教育に関する授業について研究協議により指導を仰ぐ。	イ キャリア教育に関する研究協議を基に担当首席により紀要を執筆し、特に小・中学部におけるキャリア教育について教職員全体の共通理解を図る。	イ 9月と12月に講師を招聘しキャリア教育に関する研究協議を開催した。8月に全教職員参加のキャリア教育に関するワークショップも開催した。教職員の理解が高まり、他学部の授業参観なども積極的に実施した。(紀要に掲載)(◎)
	(3) アセスメントに基づいた個別の指導計画の作成を徹底する。	(2)カリキュラム・マネジメントPTにおいてシラバスと評価との関連性について検証する。教務部シラバス担当者より学部において指導、各担任により改善を図る。	(2)学期に1回学部毎のシラバスの検討会を開催し、シラバス担当者により各担任への指導を行う。改善状況についてカリキュラム・マネジメントPT チーフにより教職員全体に向け、年度末報告会を行う。	(2) 学期ごとの検討会及び3月にカリキュラム・マネジメントPT報告会を実施した。(○)
	(4) 保護者への教育活動の周知を積極的に行う。	(3)支援研究部により、昨年度改訂した個別の教育支援計画の様式を基に、アセスメント結果と個別の指導計画に関連性があるかどうか確認できるシステムを考察する。	(3)担任同士で関連性についてチェックし、その後支援研究部員でチェックする。教職員対象学校教育自己診断アンケート項目「アセスメント結果は個別の指導計画に活かされているか」の肯定的回答率 95%以上をめざす。[89%]	(3) 学校教育自己診断教職員アンケート左記項目において、肯定的回答率92.2%であった。目標には達成しなかったが昨年度よりも向上し、個別の教育支援計画の様式変更により教職員の意識が高まったと考える。(○)
2 安全安心な教育環境	(1) 「コロナ対策検討委員会」により検証を行い、新型コロナウイルス感染対策を徹底する。	(1) 管理職、保健主事、養護教諭が月1回、コロナ対策の状況について確認する会をもつ。必要に応じメンバーを招集し「コロナ対策検討委員会」を行う。	(1) 月1回、管理職、保健主事、養護教諭で校内の対策状況を確認する。必要に応じメンバー(教務主任、学部主事、学年主任)を招集し、教育庁通知の確認、対策マニュアルの改訂や、保護者や教職員への周知を検討する。	(1) 月に一度以上、コロナ対応委員会を持ち、感染対策について検討、改善を行った。必要に応じマニュアルの改訂を行った。感染の疑いがあった際、「接触状況把握用紙」を活用し、迅速に対応できるよう努めている。(○)
	(2) 個人情報の保護、アレルギー対応及び施設・設備の安全につき徹底する。	(2)ア R2に策定した新しいセキュリティポリシーにより、各担当者が状況をチェックする。 イ 校内アレルギー対策、薬の保管に関する保護者の理解と協力の依頼を行う。 ウ 生活指導部により点検箇所や方法について見直しチェック表を改訂、集約し、企画会議で改善の検討をする。必要に応じ教育庁に報告、改善を要請する。	(2)ア チェック表を作成、8月と年度末に各担当者と首席、管理職により検証、個人情報適正に保護されているか確認する。 イ 引き続き新入生保護者への確実な周知と依頼を実施する。昨年度に引き続き研修を年1回実施し、教職員の意識を高める。 ウ 年度末、改善した箇所及び継続課題について教職員と学校運営協議委員に報告する。	(2)ア 8月と年度末チェック表による確認を実施した。教室以外にも鍵のかかるロッカーを増設し、個人情報を管理しやすい環境を整えた。(◎) イ 入学説明会等で保護者に周知し、対応が必要な場合には面談後にアレルギー等個別の取り組みプランを作成した。9/2外部講師を招きアレルギー研修を実施した。(◎) ウ 修理した場所を学期ごとに教職員に周知、安全点検簿の内容を見直し教職員の安全に対する意識改善につなげた。学校運営協議会でも報告した。(○)
	(3) 子どもの人権を尊重した教育をさらに推進する。	(3)・教職員への同和教育研修(人権担当) ・児童生徒への携帯電話の使い方に関する研修(生活指導部)、体罰等人権研修(管理職)、その他を各担当者により企画、実施する。	(3)それぞれ担当者により、年に1回以上企画立案、実施する。毎回対象者にアンケートを取り、意見集約をし、次に生かす。	(3) 7/27部落解放同盟浪速支部より講師を招聘、研修会を実施。事後アンケート結果では人権意識の高まりが感じられた。浪速警察署生活安全課防犯係と連携し、7月に中高等部生徒を対象に「携帯電話防犯教室」を実施した。8月、教頭による体罰・人権研修を実施し、ポスターの作成により教職員の意識を高めた。(◎)
3 保護者・地域・関係諸機関との連携	(1) 保護者のニーズを把握し、PTAによる研修の充実を図る。	(1) 管理職とPTA役員により、子育てに関する悩みを語り合う座談会を企画、立案する。講師を招聘し、助言を受ける。	(1) 年に2回以上実施する。アンケートを取り、成果を確認する。PTA広報誌等で研修会の状況を周知する。	(1) 講師に依頼し、3学期計2回の保護者web座談会を実施した。充実した内容で好評であった。次年度の広報誌に掲載予定。(○)
	(2) 地域支援のニーズを探り、障がい理解を推進する。	(2)ア 近隣校への障がい理解を深める出前授業や研修を継続する。 イ 各学部において、ICT等を活用した新たな交流の在り方を検討、障がい理解につなげる。	(2)ア LSや支援研究部により、昨年度に引き続き塩草立葉小学校への出前授業を年5回行う。日東幼稚園における研修を学期に1回行う。1学期に地域校に向け、障がい理解における課題についてアンケートを取り集約、地域支援及び出前授業に活かす。 イ 各学部においてICT等を活用した交流を1学期に企画、2～3学期に1回実施する。	(2)ア 出前授業についてはコロナ禍により2回のweb授業となったが、地域校のニーズに応じ幼稚園向けに研修を3回、依頼により中泉尾小学校にて1/11教職員研修会を実施した。アンケート結果はいずれも好評であり、地域の期待に応える支援が実施できた。(◎) イ 2月に塩草立葉小と栄小との作品動画によるWeb交流を実施予定。居住地校交流について保護者に2回推奨プリントを配付、直接交流3件、Web交流1件実施した。(○)

府立難波支援学校

	(3) 家庭の困り感に寄り添い、迅速な関係諸機関との連携に努める。	(3) 校内支援のシステムを強化し、支援研究部による外部専門家との連携、生活指導部による子ども相談センター等との連携及び LS 等による校内支援の可能性を探り、より良い支援の在り方を探る。	(3) 校内支援担当者により「校内支援シート」を各担任に配付、集約し、気になる子どもへの支援の方法を検討、外部専門家等に繋ぐ。シートに支援結果を担当により記載、データを全教職員が閲覧できるようにする。教職員向け自己診断アンケートにおいて関係項目につき肯定的回答率 93%以上を継続する。[92%]	(3) 「校内支援シート」を各担任に配付、外部専門家等に繋いだ。また、専門家による校内巡回も実施した。学校教育自己診断教職員アンケート「教職員は、保護者のニーズに応じて迅速に外部専門家及び関係諸機関と連携している」の項目において、肯定的回答率 95.6%を得たが、教職員自身の意識を高めることにより、更なる有効活用をすすめたい。(○)	
4 教職員の専門性とチーム力の向上	(1) 授業についての考察を深め、ホームページによる発信を工夫する。	(1) 保護者への教育活動の周知を積極的に行う。HP 内に学部・学年別コーナーを設け、教職員全員が、自身の授業の様子を紹介するとともに学部・学年別でも行事等の様子を紹介し、教育活動の様子をより詳細に周知する。HP の更新の状況をマチコミメール等で周知する。	(1) 各教員 1 人 1 回以上は記事をアップするとともに、各学部・学年も 2 週に 1 回は様子を掲載する。学校教育自己診断アンケート保護者対象「学校のホームページをよく見る。」の項目について肯定的回答率 85%以上をめざす。[81%]	(1) 左記関係項目について 71.2%という結果であったが、別の項目「学校の様子を便りやホームページ等によって知ることができる」では肯定的回答率 94.0%となっており、十分効果は上がっているものと思われる。ブログの更新数 R2 年度 162 回から R3 年度 249 回と大幅にアップしており、授業内容の公開について尽力した。(○)	
	(2) 教科会における実践の共有により、教職員間で学びあい、専門性を高めあう機会をもつ。	(2) ア 年 2 回、小中高連携した教科会の機会をもつ。特に効果的であった授業の取組や、ICT の有効な活用について紹介し合う。また、シラバスの検証や教科毎の情報交換を企画する。 イ 各自作成した ICT 教材を支援研究部によりデータベース化し、共有できるようにする。	(2) ア 教職員向け自己診断アンケートにおいて「学習形態の工夫・改善を行っている。」の問いに対し、「よくあてはまる」の回答率を 50%以上にする。[29%] イ 支援研修部担当者により ICT 教材のデータベース化について紀要にて紹介する。	(2) ア 事前に教務部長より各教科主任に話し合う内容を伝えると同時に、ICT 活用等項目ごとの記録を作成し、会の内容充実につなげることができたが、関係アンケート項目の「よくあてはまる」の回答は 32%と目標に及ばなかった。(△) イ タブレットに教材を 60 程の教材を集約、データベース化し、必要に応じ活用できるようにした。(紀要に掲載している。)(○)	(2) ア 事前に教務部長より各教科主任に話し合う内容を伝えると同時に、ICT 活用等項目ごとの記録を作成し、会の内容充実につなげることができたが、関係アンケート項目の「よくあてはまる」の回答は 32%と目標に及ばなかった。(△) イ タブレットに教材を 60 程の教材を集約、データベース化し、必要に応じ活用できるようにした。(紀要に掲載している。)(○)
	(3) 教職員の意見を集約し、業務の効率化を更にすすめ、健康的で活気ある職場環境を整える。	(3) ウ 安全衛生委員により 1 学期、業務の効率化について各学年で意見を募り、改善策を検討する。必要に応じ、アンケートを実施する。 エ 長時間労働の解消をめざし、19:30 までの退勤を促す。19:30 以降に残業する傾向のある教職員には管理職が面談を実施、その原因について共に考察し改善策を探る。	(3) ウ 各学年の意見を集約し、2 学期末の安全衛生委員会で改善の状況と更なる課題を検証、次年度につなげる。 エ 月 45 時間を超える勤務時間対象者をのべ 80 人に減少させる。[103 人]	(3) ウ アンケート集計結果を 2 学期に周知し、業務内容の精査に取組めるよう呼びかけた。ICT を活用した業務効率化の検討をすすめている。(○) エ 3 月末で 132 人と、目標達成できずであった。次年度は、教職員一人ひとりが具体的に自身の業務内容と取り組む手立て等を見直し、効率化できる点を探り、面談等の機会に管理職と話し合う等、別の角度より働き方改革について考察したい。(△)	(3) ウ アンケート集計結果を 2 学期に周知し、業務内容の精査に取組めるよう呼びかけた。ICT を活用した業務効率化の検討をすすめている。(○) エ 3 月末で 132 人と、目標達成できずであった。次年度は、教職員一人ひとりが具体的に自身の業務内容と取り組む手立て等を見直し、効率化できる点を探り、面談等の機会に管理職と話し合う等、別の角度より働き方改革について考察したい。(△)